

新収資料紹介 オオカミの頭骨

中村一恵 (学芸員)

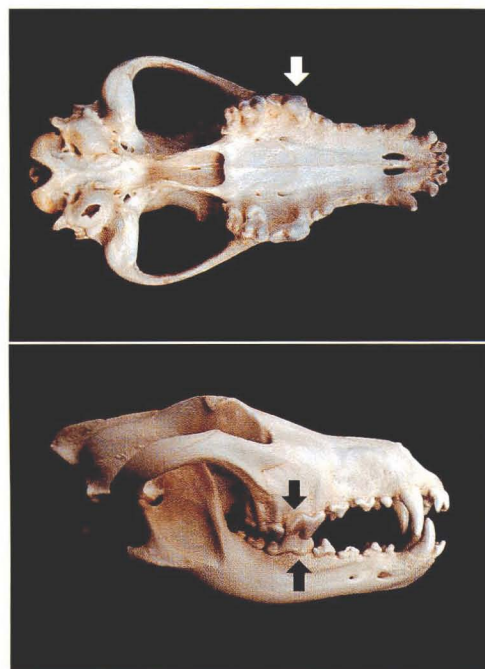
96年度に収集した資料の中から、北アメリカ産のオオカミ (*Canis lupus*) の頭骨標本を紹介します。

生物界の中でもっとも明瞭な単位は個体でしょう。個体はその構造的、機能的な統合性を維持することにより、生命は維持されています。基本的な単位である個体の集合が個体群であり、互いに遺伝子やコミュニケーションの交換可能な集団としてのまとまりが種 (species) と呼ばれるものです。逆の見方をすれば、個体には、種や科に共有される構造的、機能的な統合性が集約されているということになります。

1個のオオカミの頭骨、すなわち個体から引き出せる情報とは何か、他の食肉類と比較しながら、標本を観察してみましょう。

ライオン、オオカミ、クマなどは食肉目・裂脚亜目に分類されます。平たく言えば、いわゆる猛獣と呼ばれる動物たちがこの仲間です。

すべての食肉類 (目) は裂肉歯と呼ばれる歯を持っています。裂肉歯は上下1対の奥歯のことで、専門用語で言えば、上あごの第4前臼歯と下あごの第1臼歯が裂肉歯に変わっているということです。



オオカミ (KPM-NF1002014) の裂肉歯の位置。

写真ではオオカミの頭骨の側面 (下) と、下あごをはずした状態で頭骨の裏側 (上) が示されています。矢印で示した歯が裂肉歯です。

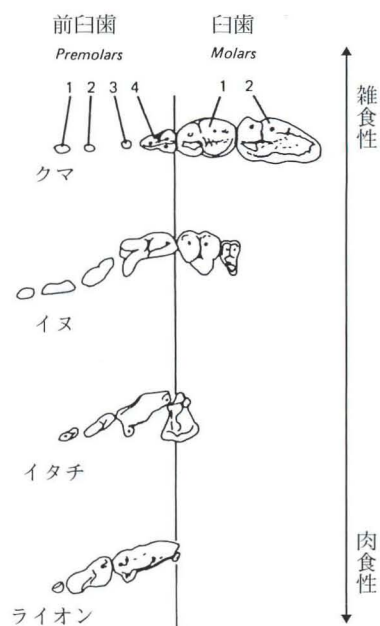
食肉類が肉を切る歯は、鋭い牙 (犬歯) と思われがちですが、そうではなく、裂肉歯をハサミのように使って、肉を切るのです。オオカミの裂肉歯は、あごの関節する部分と、あごの先端部との間のおよそ中間のところに位置しています。上あごと下あごを噛み合わせると、上あごの裂肉歯は下あごの裂肉歯におおいかぶさるようになります (写真下、参照)。私たちがハサミを使って紙を切るときと同じで、上下の裂肉歯をスライスさせて肉を切ることができるのです。

裂肉歯の位置に合わせて、クマ、イヌ、イタチ、ライオンの前臼歯と臼歯の歯列 (図参照) を見てみると、同じ食肉類でも、その形態はさまざまであることがわかります。クマには2本の大きな臼歯がありますが、オオカミでは奥の1本は小さくなっています。ライオンには、とても小さな臼歯が1本あるだけです。

クマは食肉類ではあっても、その食性は基本的には草食または雑食性です。そのため裂肉歯としての発達はあまり認められません。文字通り「臼状」の臼歯のかたちがそのことを語っています。

イタチやネコは完全な肉食性の動物です。ネコ科の動物の歯の数は上下合わせて30本であるのが一般的です。哺乳類の基本的な歯数は44本ですから、かなり歯を減らしてしまっただけになります。そのため吻部が短縮しています。

一方、イヌ科の動物の歯数は42本であるのが一般的です。ネコ科に比べて、イヌ科の吻部が長い傾向にあるのはこのためです。つまり、歯列の形態や機能が変化したり、歯の数が減ったりしなかったということが、イヌ科の頭骨に見られる大きな特徴です。特殊化の程度がネコ科に比べてイヌ科では低いこと



食肉類各科の前臼歯と臼歯の歯列比較。裂肉歯は数字の4で示した位置にある歯 (McFarland et al., 1979を改変)。

になります。歯の数ばかりでなく、イヌ科の動物は構造上いろいろな点で原型的な特徴を保持しています。

かつてオオカミは、単一種としてもっとも広い分布域を持っていた哺乳類でした。ツンドラ、砂漠、高山、草原、森林などなど、あらゆるタイプの環境に進出できたのも、ネコ科の動物に比べて形態上の特殊化の程度が低いという点に、環境や食物選択の面で柔軟性に富み、ネコ科のように贅沢ではなかったからでしょう。

平成10年度に「オオカミとその仲間たち (仮称)」という特別展を予定しています。オオカミからイヌへの「進化」の話題を中心に、イヌ科動物の世界を展示・解説いたします。

自然科学のとびら
第3巻第1号 (通巻第8号)
1997年2月15日発行
発行所 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250 神奈川県小田原市入生田499番地
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
発行人 濱田隆士
編集 奥野花代子・佐藤武宏
印刷所 フルサワ印刷株式会社

この冊子は再生紙を使用しています